

eco japan cup 2006 各部門の受賞者

【環境ビジネス・ベンチャーオープン】応募 24件

審査委員長 木内 孝(NPO法人フューチャー500会長、NPO法人GRI日本フォーラム会長)

敢闘賞: 株式会社イーブラット

EcoBino(エコビーノ)による ESCO 事業

電力消費が大きいといわれている、流通・サービス業のチェーン店舗の省エネを実現する情報システム「EcoBino(エコビーノ)」を活用した ESCO 事業。対象顧客先と対象環境効果を絞り込んだビジネスプランであり、明快で分かりやすい点が高く評価された。

敢闘賞: 株式会社エコエナジー

情報金利付き金融商品「エコ森国産木材住宅・積立貯蓄&住宅ローン」HOME E-Forest

わが国の森を守りながら、信頼の置ける住宅建設システムをつくる、積立貯蓄&住宅ローン事業。森を守るという、重要かつ身近な環境問題解決に、個人向け環境金融商品で取り組む着眼、発想、事業構築が高い評価を受けた。

SMBC 賞: みどりのゴミ銀行

銀座を「緑の循環都市」に 銀座ゼロエミッション

日本一有名な繁華街 銀座地区の商店街のゼロエミッションを、NPO 法人 みどりのゴミ銀行と商店街協同で取り組む事業。銀座というブランドを使って社会への影響を図るという戦略性および、銀座以外の地域への拡大展開、さらには全世界にもアピールできる夢の広がりが評価を受けた。

審査の視点 そのビジネスが環境問題の何をどのように解決するのは、比較的明確に主張されていたといえる。しかし、環境ビジネスが「環境」を相手にする以上、自社のビジネスの成功だけが目的であるはずはなく、たとえば、製品の LCA も含めて全体最適を視野に入れた、自社の枠を突き破り世界の環境ビジネスと連携しあう「本物の環境ビジネス」の構築が求められていることを認識する必要がある。この意味では、今回のエントリープランは自社の成功を願う部分最適の範囲から大きく踏み出したものがなかったといえる。来年は、環境と社会を変革するためインパクトのある「環境ビジネス」プランの応募を期待している。

【エコ・チャレンジ!】応募 41件

審査委員長 竹内 恒夫(名古屋大学教授、エコアクション21事務局長)

ビジネスプラン部門

グランプリ

該当なし

奨励賞

漢方薬の煎じ滓を使った無農薬農法 赤井嘉晴(NPO 法人漢方環境安全対策普及協会)

漢方薬を生産する際に生まれる「煎じ滓」を堆肥に混ぜて、農薬なしでも虫の来ない土をつくる「土地改良材」を生産し、土の健康改善のコーディネーション、コーチや認証も行う。

山村と都市との共生を目指して「中山間地域の活性化」事業 NPO 法人「天竜川・杣人(そまびと)の会」

古民家を活用したり、良質な天竜材と間伐材をふんだんに使った「天竜・和(なごみ)の家」を建築したりする事業を通じて、中山間地域の活性化を図る。

アイデア部門

アイデア賞

バイオマス資源を利用した温泉街エコタウン化 永井大介

これまで焼却処分されていた温泉街のホテル・レストランの生ゴミを、温泉熱を利用してバイオガス化する事業を第一歩に、温泉街のエコタウン化を進める。

エコラベル・コンシェルジュ(エコラベル・マイスター)の認定 中庭知重

エコラベルの種類が「多いことは楽しい」と捉え、多様なエコラベルを活用したモノ選びをお手伝いできる、環境ラベルの専門家を認定する講座を運営する。

奨励賞

吉祥寺トラスト - 井口農園の奇跡の森を残す - 井口浩・小野加瑞輝(NPO 法人ミレニアムシティ)

都市に残された“奇跡の森”を、農地トラストによる農地の活性化、森林トラストによる相続税の軽減などを組み合わせることで、都市市民の環境資産として守る。

テーマ・対象別賞 (カッコ内は賞の提供団体)

テーマ・対象別の各賞は、様々な NPO、企業が提供し、それぞれの審査基準に基づいて独自に審査し、受賞者を決定しています。それぞれのグループは、その強みを活かして受賞者を支援していきます。

毎日起業家クラブ賞

漢方薬の煎じ滓を使った無農薬農法 赤井嘉晴(NPO 法人漢方環境安全対策普及協会)

(ビジネスプラン部門奨励賞とダブル受賞)

環境ビジネスウィメン賞(環境ビジネスウィメン)

エコラベル・コンシェルジュ(エコラベル・マイスター)の認定 中庭知重

(アイデア部門アイデア賞とダブル受賞)

エコクリエイティビティ賞(知恵市場)

おらの畑ドットコム 玉置径夫

有機野菜を自己責任で育てるサイトを提供するビジネス。インターネットを通じて、自分の畑で育てている自分の野菜を見て作業内容を指示することができる。

i-Trans 留学生賞(i-Trans 株式会社) & センサップ国際人賞(株式会社センサップ)

「親近自然」のアパレルネットワーク 李薇

親近自然(中国の言葉)をテーマに、自然素材を使った服をオーダーで手作りし、無駄をなくし、自分らしさを表現できる「衣」の仕組みをつくる。

i-Trans 留学生努力賞

エコ情報化教務補助サービス 談詰

大学や大学院で統合的な教務補助サービスを提供し、効率的授業環境をつくとともに、出席管理の電子化や電子ファイルの利用によって、紙の節約をする。

市民プロジェクト・一新力賞(NPO 法人一新塾・環境チーム)

海洋漂着物活用のエコ集落 丹保俊彦

海岸に打ち上げられる海洋性の漂着物ゴミを、海草類は農業に活かし、流木は燃料にし、プラスチック類、ナイロン系漁具類などはリサイクルする仕組みをつくる。

ソーシャルビジネス賞(NPO 法人パブリックリソースセンター)

スローフード置き菓子 森美歌

会社員(主に OL)を対象として、作り手とのつながりを感じる事の出来る、素材にこだわった手作りお菓子を会社に置いてもらい、売れた分だけ料金を払ってもらう。

Rooftop_Wing_project - 屋上からビルを再生するプロジェクト 布施圭佑

屋上緑化を兼ねた農業生産施設をビル屋上に設置し、環境にやさしいビルを作ると共に、生産された農産物の流通を一括して管理し、ブランド化する。

シニアエコビジネス賞(NPO法人新現役ネット)

環境ベテランズファーム 今泉良一

環境にやさしい産業技術を培ってきた中高年の科学・技術者を組織し、優れた知見、経験、能力を生かして、環境マネジメントやコンサルティングなどの事業を行う。

フェアトレード賞(山元学校)

One click's - Eco with Net 若者が世界に緑を取り戻す 宮澤雄人

ケータイでの総合サイトを展開し、ダウンロード代や手数料などの利用料金に応じてエコポイントが貯まり、My tree(自分個性の木)を植えられるサービスを提供。

スロービジネス賞(中間法人スロービジネスカンパニー)

「スロー」、をテーマに、人と人をつなげる 平戸実生

各地でスローな暮らしや働き方を実践する人々を訪ねる有料のツアーや講座を企画し、応援者を増やすとともに、そうした生き方を実践するきっかけを提供する。

あい優ハウス・脱温暖化賞

該当なし

エネルギー・グリーン賞

該当なし

審査の視点 優秀なアイデアが多かったが、環境問題をビジネスとしてどのようにとらえているのか。必ずしもその方向性が明確であったとはいえない。地球環境の危機をどうようにしてストップさせるのか、従来のビジネスモデルにない「何か」を感じさせるものがなかったということになる。それは来年に期待するという事になった。

[ソーシャル・エコビジネス・アワード]

審査委員長 谷本 寛治(一橋大学大学院教授)

本賞のねらいと対象者

環境問題の解決には、環境に配慮した商品の開発や環境問題を解決する仕組みを事業化するだけでなく、市場メカニズムを介し広く一般の人々の環境意識を高めることが必要である。

本賞は、新しい社会的価値の提供を通して人々の意識を変化させる仕組みを内在させている事業を展開している社会的企業家とその事業を表彰するものである。

ソーシャル・エコビジネス大賞

・氏名: 杉山さかえ氏

(特定非営利活動法人北海道グリーンファンド)

(株式会社市民風力発電・株式会社自然エネルギー市民ファンド)

・事業名称: 市民出資による風車建設およびグリーン電力料金制度

・事業内容: 「原発や化石燃料にばかり頼らずに、自然エネルギーで電気をつくりたい」そんな思いをもつ人々がお金を出し合って建てる風車が「市民風車」である。2001年9月、建設費用の約8割が市民からの出資でまかなわれた市民風車を日本で初めて建設。市民出資の共通スキームを作ったことにより、現在では全国に10本の市民風車が建設されるまでになっている。

・選定コメント: 市民による風車建設というエネルギー自給への象徴的な事業の成功と、その後の各地域への普及は、社会性・事業性・革新性のいずれにおいても高く評価される。

三菱東京UFJ銀行賞

・氏名: 飯島博氏

(特定非営利活動法人アサザ基金)

・事業名称: 魚粉事業を利用した市民型公共事業の推進および他の地域への普及事業

・事業内容: 外来魚・未利用魚を水揚げし富栄養化の原因となる窒素とリンを減らすことで湖の水質浄化を図る一方、水揚げされた魚は魚粉に加工し、肥料や飼料として農業に利用。この一連のプロセスにおいて市民や地域の多くの団体を巻き込み、協働事業として展開している。さらにこの事業モデルを秋田県でも開始するなど他地域への普及も積極的に推進している。

・選定コメント: 生態系保全のために外来魚対策をビジネスと位置づけ、地域を巻き込んだ市民型公共事業としている点、このモデルを普及させている点が評価される。

三菱東京UFJ銀行賞

・氏名: 桑田慎也氏

(株式会社ピッキオ)

(特定非営利活動法人ピッキオ)

・事業名称: 森への経済価値の付加および生態系保全のためのエコツーリズム事業

・事業内容: 森の経済的価値を高めるために、エンターテインメントと環境保護を両立させたエコツアーを展開するとともに、併設のNPO法人において野生動物と人間の軋轢(あつれき)や地域生態系の攪乱という地域の課題、森林および草原生態系の調査保全活動、特定種の保護管理活動などの諸活動に取り組んでいる。この株式会社とNPO法人を組み合わせた戦略が、事業性と社会性の両立を支えている。

・選定コメント: (株)ピッキオとNPO法人ピッキオが事業を分担することにより事業性と社会性の両立が図られているとともに、地域社会への貢献度、エコツーリズムの方向性や環境学習的な意義も高く評価される。